

# 国が支援する福島第一廃炉・汚染水研究開発プロジェクトの全体構成

(事業名の下に記載されている金額は、2014年度・2015年度において交付決定済みの補助金額)

## 使用済燃料

1 使用済燃料の長期健全性評価  
(~2017年度)  
【10.3億円】

2-① 遠隔除染装置開発  
(~2015年度)  
【8.9億円】

2-②-1 格納容器止水技術  
(~2017年度)  
【21.3億円】

2-②-2 止水技術実規模試験  
(~2016年度)  
【40.0億円】

連携



楢葉遠隔技術開発センター  
(モックアップラボ)

### 格納容器 止水・補修

### 除染・ 線量低減

2-④-1 燃料デブリ・  
炉内構造物取出基盤  
技術(~2019年度)

2-④-2 燃料デブリ・炉内  
構造物取出工法・システ  
ム高度化(~2019年度)

【10.6億円(注1)】

### 燃料デブリ 取出

2-③-1 格納容器内部  
調査技術(~2016年度)  
【13.2億円】

2-④-3 デブリ収納・移送・  
保管(~2019年度)  
【3.4億円】

<デブリ取出RFP(注3)>  
- 視覚・計測技術  
- 切削技術 - 工法

2-③-2 圧力容器内部  
調査技術(~2019年度)  
【1.1億円(注2)】

### <直接> 炉内調査 ・分析

2-④-4 格納容器/圧力容器  
健全性評価(~2016年度)  
【6.8億円】

2-④-5 デブリ臨界管理  
(~2019年度)  
【1.9億円】

2-③-3 事故進展解析による  
炉内把握(~2017年度)  
【18.1億円】

### <間接>

2-③-4 原子炉内燃料デブリ  
検知技術(~2016年度)  
【3.2億円】

2-③-5 燃料デブリ  
性状把握  
(~2019年度)  
【27.2億円】

連携



大熊分析・研究センター(オンサイトホットラボ)

### 廃棄物処理・処分

3 廃棄物処理・処分  
【28.9億円】

連携

<汚染水対策RFP(注3)>  
- 海水浄化 - 土壌中放射性物質捕集  
- 汚染水貯蔵タンク除染  
- トリチウム分離 - 無人ボーリング

(注1) 現在公募中の2015年度補助事業(基盤技術開発:上限額40億円+5億円×数テーマ、工法・システム高度化:上限額15億円+5億円×数テーマ)を含まない。

(注2) 現在公募中の2015年度補助事業(上限額5億円+1.5億円×数テーマ)を含まない。(注3) "RFP"(Request for Proposal)とは、国内外の英知を結集するための国際提案公募事業。

# 廃炉・汚染水対策予算の推移

	平成23年度 補正	平成24年度 当初	平成24年度 補正	平成25年度 当初	平成25年度 予備費	平成25年度 補正	平成26年度 補正	計
廃炉・汚染水 研究開発	20億円	20億円		87億円		215億円	198.5億円	540億円
モックアップ 試験施設 分析・研究 施設			850億円				6.6億円	857億円
凍土壁					136億円	183億円	26億円	345億円
国ALPS					70億円	81億円		150億円
計	20億円	20億円	850億円	87億円	206億円	479億円	231億円	1892億円